

親の愛情が成長する力に

命の誕生の真実

両親と家族の期待の中で迎える新たな命の誕生。それをつかさどられているのが、全ての命の源である大山祇命です。神は、このように示されています。

神 示

神は その家の心の道に 生き続ける魂を その家の実体受け継ぐ赤子に宿すと申す

運命実体
命の誕生の「真実」である

男女が家庭をつくり、授かった愛の結晶は、神から魂を封じ込められ、人としてこの世に誕生します。生まれてくる子供には、連綿と続くその家系に生きた先祖の魂が宿されます。偶然ではなく、深いえにしがあればこそ、子供はその家の子孫として生を受けているのです。

神 示

生命
命の誕生——神の手中 計らわれし慶事と申す

人知を超えた計らい事ゆえ 不信 不敬はならず

ただただ我が子の誕生 その命を敬い 花咲く運命枯らさぬように 愛情 思いをかけよ

新たな家族の誕生は、両親はもちろん、家族も、親族も、大きな喜びに包まれる、その家にとっての一大慶事です。生まれたばかりの赤子の魂も、言葉には出せなくても、縁ある人々の元に生を受けた喜びにあふれているに違いありません。昔から、子供は授かり物といわれ、どのような子が生まれるかは、まさに神の手の中で計らわれることです。神は、神から授かった子供の存在を大切にして、豊かな愛情を注ぐことをお教えくださっています。

さまざまな能力を身に付けて

人間は、長い成長期の中に、他の動物とは比べものにならないほど、さまざまな能力を身に付けます。運動能力や知的能力、美しいものを美しいと感じ取る能力、人の心を思いやったり、善悪を判断し、向上を目指したりする高度な精神的能力も獲得します。

そして、親子や家族との触れ合いを通して、豊かな社会生活を営むことができる力を育んでいきます。人間らしく生きるために必要な力を身に付ける成長期は、親にとっても子育ての喜びが味わえる至福の時であり、親子の情愛を育む大切な期間です。

愛心 愛語が我が子を育む

神は、育児の基本をこのようにお教えくださっています。